昭和100年特別展

薬害の歴史をひも解く ー医薬品の光と影 ひとといのちの100年ー　シンポジウム

薬害を教育で どう伝えていくか

子どもたちを将来、薬害の被害者にも加害者にもしないために

2026年

12.6（日）

13:00 – 15:00

京都市勧業館 みやこめっせ　地下1階 特別展示場

地下鉄東西線「東山」駅から北へ徒歩約8分

JR京都駅から市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車

会場とオンラインの同時開催

（オンライン参加は下記のQRコードから）

薬害とは何か。どう伝えるのか。高校の授業などの公教育から、医師・薬剤師・看護師を育てる高等教育まで、いま始まっている模索を共有し、これからの課題について議論します。

講 演

勝村 久司	**薬被連の文部科学省交渉 ― 28年間の成果と課題** 全国薬害被害者団体連絡協議会 副代表世話人（文部科学省交渉担当）。高校教員。
平田 收正	**薬害防止のための高等教育カリキュラムとは** 京都薬科大学 学長。大阪大学名誉教授。薬学教育コアカリキュラムの改訂に参画。
粂 和彦	**医療系学生に薬害を教える ― 授業の実践を通して** 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 教授。医師。被害者の声を聴く授業に取り組む。
上村 浩代	**公教育で薬害を伝える ― 取り組みの経過と今後** 厚生労働省 医薬品副作用被害対策室長。「薬害を学ぼう」や薬害教育検討会を担当。

ディスカッション　コーディネーター　**勝村 久司**（薬害研究資料館 副理事長）

オンライン参加（Zoomウェビナー）

us06web.zoom.us/j/81811789269

ウェビナーID　818 1178 9269

（会場・オンラインとも）参加費無料、予約不要

特別展 会期　12月5日（土）– 13日（日）

主催　一般社団法人 薬害研究資料館